

一橋大学体育会バレーボール部

第5回海外遠征(タイ)報告書【ダイジェスト版】



文責 4年 主将 平林凜太郎
2年 多田友之介

目次

I. 遠征内容	2
概要	3
遠征総括①	5
遠征総括②	6
遠征総括③	7
日程詳細	9
II. 部門別報告	15
(1) 交流・討論会部門報告	16
(2) 経済部門報告	19
(3) 歴史文化部門報告	20
III. 全体感想	22
IV. 如水会タイ支部訪問	25
V. 事前学習	28
VI. 参考資料	30

I . 遠征内容

～はじめに～

私たち一橋大学体育会バレーボール部は、如水会、およびOBの皆さまのお力をお借りして、2018年8月6日から8月12日までタイを訪問、チュラロンコン大学(以下CU)と交流をして参りました。バレーボール部にとって今回の海外遠征は5度目でしたが、無事成功することができました。

頂きましたご支援・ご助力に対し御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。今回の海外遠征につき以下の通りご報告申し上げます。

概要

(1) 日程〈2018年8月6日～8月12日〉

- 8月6日 成田空港発(CI107便)・台北桃園空港経由(CI835便)・バンコク着
- 8月7日 日本大使館・JETROバンコク支部訪問、タイトヨタ BANPHO 工場見学、如水会タイ支部夕食会
- 8月8日 アユタヤにてワット・ヤイ・チャイモンコン/ワット・マハタート/ワット・プラ・シー・サンペート見学、アジアティーク・ザ・リバーフロント班別見学
- 8月9日 EMINENCE 訪問、CUバレーボールクラブとの交流試合・交流夕食会
- 8月10日 国立博物館見学、CUバレーボールクラブとの交流試合・交流討論会・交流夕食会
- 8月11日 タリンチャン水上マーケット見学、ワット・プラケオ/ワット・ポー/ワット・アルン見学、班別自由行動
- 8月12日 バンコク発(CI838便)・台北桃園空港経由(CI108便)日本へ帰国、解散

(2) 参加者

体育会バレーボール部 四年生5名、三年生11名、二年生11名、一年生10名、
付添OB2名、

合計39名

氏名詳細は添付の参考資料の通り。

なお、安西正嗣OB、石川城太郎長がCUとの交流(8月9日、10日)に現地参加。

(3) 交流先

CUバレーボールクラブ

(4) 交流試合会場

チュラロンコン大学 (254 Phayathai Rd, Khwaeng Wang Mai, Khet Pathum Wan, Krung Thep Maha Nakhon 10330)
総合体育館 (交流試合)、大学内食堂およびレストラン (交流夕食会)

(5) 宿泊場所

チュラロンコン大学寮 Chuan Chom/Wittayanivej
住所 (Chuan Chom): 254 Phayathai Rd, Khwaeng Wang Mai, Khet Pathum Wan, Krung Thep Maha Nakhon 10330

(6) その他、訪問先

日本大使館 177 (Witthayu Road, Lumpini, Pathum Wan, Bangkok 10330)
JETRO バンコク事務所
タイトヨタ BANPHO 工場 (99 Moo 2, Lad Kwang, Ban Pho, Chachoengsao 24140)
如水会バンコク支部
EMINENCE (5 Soi Prachanukul 3 (Rachada 66) Rachadapisek Rd, Wongsawang, Bangsue, Bangkok 10800)

遠征総括①

3年 渡邊雄貴

今回のタイ遠征は、一橋大学バレーボール部にとって5回目の海外遠征である。2010年から隔年で回を重ねてきたが、如水会および一橋大学バレーボールクラブ(OBOG会)からのご支援を頂きながら、より充実した遠征に進化している。私たちの海外遠征の特徴を3点あげる。1つ目は一から作り上げる点である。どこに行くのか、どの大学と交流するのかを決めるところから1年半以上かけて遠征の準備をする。2つ目は現役が主体な点である。現役が目的を考えながら遠征先やスケジュールを希望し進めていく。海外遠征アドバイザー委員会という、麻植茂氏・吹野博志氏をはじめとするOBOGが委員となって学生主導の海外遠征に関しその経験から有効な助言をする一橋バレーボールクラブの機関より、現役の遠征先や遠征計画に対して助言や承認を頂くことでより充実した遠征内容になる。また、より充実した海外遠征を実現するために、4回にわたる勉強会を自主的に行った。3つ目は、現地大学生との交流でバレーボールの試合をするだけでなく、英語での討論会や夕食会を通じて相互理解を深めている点である。他国の学生との交流において英語での討論をすることにより、相互理解が深まると同時に、国際的な視点で物事を考える機会となる。

次に現役が主体的に行った勉強会について説明する。今回のタイ遠征では、「将来にわたるフレンドシップ」「経済発展のダイナミズム」「ユニークな歴史文化」の3つをテーマに設定し、このテーマの学習を深めるために勉強会を開催した。それぞれのテーマに合わせて討論会班、経済発展研究班、歴史文化研究班の3班を作り、全員がいずれかの班に所属して事前学習を進めた。遠征直前期(2018年6月~7月)には、毎週末に2時間程度の勉強会を行い、各班で学習した知識を部員全体で共有した。この勉強会を行ったことにより、実際の交流や見学において事前の知識と照らし合わせた深い学習をすることができた。具体的には、討論班主体に行った討論会練習によって一橋側が討論会をリードして円滑な話し合いをすることができた。経済発展研究班のプレゼンテーションにより、日本大使館やJETROバンコク事務所での中進国に関する質問や各訪問企業での英語での積極的な質問をすることができた。歴史文化研究班のプレゼンテーションにより、国立博物館や水上交通、アユタヤの歴史や各寺院の価値を理解したうえで見学をすることができた。

事前準備に関して述べてきたが、今回の遠征で一番印象に残っているのはチュラロンコン大学との交流である。2日間にわたり試合・討論会・懇親会を通して交流を深めたが、両校ともに積極的に話をする姿勢が見られた。特に討論会では、性の多様性という難しいトピックでありながらも、オープンな議論をすることができたことは大きな収穫であった。両校から再度交流したいという意見もあり、「将来にわたるフレンドシップ」を作ることができたチュラロンコン大学との交流は成功であった。

今回のタイ遠征は事前準備から力を入れたことで、現地で多くのことを学び経験するこ

とができた遠征だった。本遠征に対しご支援をいただいた如水会や OBOG 会に感謝の意を表するとともに、各部員がこの経験を活かし社会で活躍することで貢献していきたい。

遠征総括②

3年 吉田陽

今回の遠征では、テーマの一つに「経済発展のダイナミズム」を感じ取ることを掲げていた。その一環として2日目に日本大使館、JETRO バンコク事務所、タイトヨタ BAMPHO 工場の訪問、そして如水会バンコク支部にて我が校の OB で、現在タイにてご活躍されている方々と夕食を共にした。また、4日目には現地企業である EMINENCE 社に訪問した。それらについて特に印象に残った日本大使館の訪問を中心に以下に記そうと思う。

日本大使館では、我が校の OB で、現在広報文化部で活躍されている久芳さんからお話をお伺いした。内容についてはまずタイ王国の概要や政治・経済情勢などについて聞いた後、具体的な大使館の業務内容、その後に質疑応答となった。その中で特に興味を持ったのがタイの現在の課題についての話だ。タイは現在「中進国のワナ」にはまっている。これまでは安い労働力を武器に外国資本を集積できていたが、経済発展とともに賃金が上昇し、うまくいかなくなってきた。その解決策の一つとして産業人材の育成を掲げており、日本の教育制度の導入なども行っていると聞いた。また久芳さんを含めた広報文化部もタイの優秀な学生を日本に招くなど、この取り組みに少なからず関与しているそうだ。人口が少ないタイがそのハンデを乗り越え、今後どのように発展していくのだろうか。

JETRO バンコク事務所では Souknilanh Keola さんからタイとラオスの中進国経済についてのお話をお伺いした。ASEAN では現在「中進国のワナ」の観点から3つのカテゴリーに分類され、「縁がない」シンガポールやブルネイ、「突破できない」マレーシアなど、そして後発 ASEAN であるそのほかのまだ低所得の国々に分類される。その中でタイとラオスは両国とも外国からの投資・進出に依存しながらも経済状況が異なり、ラオスでは人が集まらず労働力を含めて外国に頼っていることを学び、大変興味深かった。

その後、バスで一時間ほど移動しタイトヨタ BAMPHO 工場を訪問した。そこは広大な土地を利用した大規模な工場であり、その工場の説明と生産ラインのツアー見学を英語でしていただいた。生産ラインでは4色に分けられたランプの使用や何回も繰り返し行われる検査工程によって車体の安全性を担保しようとする仕組みを勉強することができた。トヨタ生産方式を間近で勉強することができ、とても有意義な見学となった。

如水会バンコク支部の夕食会では、20名を超える多くの OB と交流することができた。10年以上タイにて活躍されている方から今年赴任した方やこの夏からタマサート大学にて勉

強する学生まで様々な方と食事とともにお話をお伺いした。これだけ多くの OB が活躍している点からも日本産業のタイへの進出の一側面を垣間見ることができたと思う。

EMINENCE 社では社長の Arin さんを中心に多くの社員さんや Arin さん一家に温かく迎えていただいた。紙面の都合上、詳細は割愛させていただきます。

今回の訪問を契機として今後一層タイ経済についての勉強を進めていきたいと思う。そして、後輩たちには今回の遠征の成果を更に一層レベルアップして行ってほしい。

遠征総括③

3年 旭麻衣

現役の海外遠征担当と OB から構成される海外遠征アドバイザー委員会との打ち合わせの末に訪問先がタイに決定してから、私を中心に訪問先の交流校の選定の作業に入った。今までの遠征では、2年前の台湾遠征では国立台湾大学、4年前のシンガポール遠征ではシンガポール国立大学、といったその国のトップの大学を訪問してきた。そのため、まずタイ国内でそのような地位にあるチュラロンコン大学のバレーボール部にアプローチすることにした。また、バンコク市内に一橋大学のように社会科学の学部のみで特化したタマサート大学もあり、そこに弊部の OB が以前留学していたという縁もあってチュラロンコン大学と平行してアプローチすることにした。当初、チュラロンコン大学とは何もコネクションがなく、フェイスブックなどの SNS を通じてコンタクトしたもののなかなか返信をもらえなかった。そこで次に、タマサート大学へのアプローチに力を入れることにした。しかし、OB の仲介があったのにも関わらずタマサート大学とも連絡を取ることができなかった。そのような時、一橋の空手部がチュラロンコン大学の空手部と毎年交流をしているという情報を得たことでそこを通じてチュラロンコン大学のバレーボール部の部員と繋げてもらえることに成功した。繋げてもらったのはよかったものの直接連絡を取っても返信が遅かったりと、私たちとの交流にあまり乗り気でないように感じられ、私たちと交流してもらえるように説得し、実際に交流日程を決める作業は難航した。最終的にはひとまず交流日程を確定させ、正式にチュラロンコン大学のバレーボール部と交流することが決定し、そこから交流日程の詳細を詰める作業に入った。

タイに到着し、実際に今まで連絡を取っていたチュラロンコン大学のバレーボール部と対面してみると今まで連絡を取っていた時とは打って変わってとてもウェルカムな雰囲気を感じた。私たちは滞在中チュラロンコン大学内の寮に宿泊させていただいたのだが、そのチェックインを付きっきりで通訳をしながら手助けしてくれたり、懇親会の際も終盤には

ぜひこれからも交流を続けたいと言ってもらえたりした。滞在中毎日私たちのバスをアテンドしてくださったガイドのノッポンさんもおっしゃっていたが、タイ人は時間などにルーズな人が多いそうで、私も実際に彼らに会うことによって、今まで連絡などが遅かったのは別に交流に対するモチベーションがなかったわけではなくそのような国民性なのかもしれないと身をもって知ることができた。

このように日本以外の人と何も無いところから一緒に何かを作り上げることは、言葉の壁や価値観の違いなどからとても難しいことを今回の遠征を通して感じた。しかし大変な分、実際に会って交流できた時や、また会いたいなどと言ってもらえた時は人一倍嬉しく、この遠征を通じてこのような経験をすることができたのは私にとってとても貴重であった。

日程詳細

8月6日(月曜日) 1日目

7時20分に成田空港に集合し、日本時間9時25分発のチャイナエアラインCI107便で台北桃園空港へ。台北桃園空港でチャイナエアラインCI835便に乗り継ぎ、タイのスワンナプーム空港へ。現地時間16時20分に到着。現地ガイドのノッポンさんと合流した後、手配バスに乗り宿泊先の大学寮へ。この日は、移動のみで終了。



8月7日(火曜日) 2日目

手配バスにて大学寮を出発、9時に日本大使館に到着。文部科学省から外務省へ出向し、在タイ日本国大使館にて勤務されている、本学OBの久芳一等書記官からお話を伺った。ご自身の経歴、大使館業務、日本とタイの関係についてなど有益なお話を伺った。事前に行った勉強会でタイ経済について予習していたこともあり、活発な質疑応答が行われた。

その後は、独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)バンコク事務所を訪問した。JETROでは、「中進国の罠」やタイとラオスの経済状況をお聞きした。事前の勉強会で話になることが多かった「中進国の罠」であるが、今回の訪問によりそれに関する疑問や解決策など

をお聞きすることができ、非常に有意義なものとなった。また、その後の質疑応答では、さらに理解を深めることができた。

午後はタイトヨタの BANPHO 工場を見学した。現地工場スタッフの英語による説明を聞きながらトヨタ生産方式を学んだ。安全で快適な車を作るためのライン化された車両生産工程は非常に正確なものであった。また、従業員が快適に労働に従事するための労働環境も見学することができた。

夜には、日本人会館本館にて如水会バンコク支部夕食会に参加した。タイで勤務されている多くの OBOG に参加した頂き非常に豪華な夕食会となった。諸先輩方から社会で働く上でのアドバイスや就活に関するお話を頂き、有意義な会となった。また、タイにでの生活のことなども色々と話した頂き、大変盛り上がった夕食会となった。



8月8日(水曜日) 3日目

9時に手配バスにて宿舎を出発。バスに乗ること1時間半、ワット・ヤイ・チャイモンコンに到着。アユタヤ朝期に建立されたこの遺跡は高い仏塔からの景色が壮大であり、戦で欠けた仏像や城壁からは歴史を感じることができた。昼食は、近郊のカントリーホテル、アユタヤにて頂いた。

手配バスでまた1時間、ワット・マハタートに到着。こちらの遺跡もアユタヤ朝期に建立された。しかし、1760年頃から始まったビルマとの戦いにより多くの仏像、城壁が破壊

された。木々の根に埋まった仏像が有名なこの寺院には観光客は勿論、多くの熱心な仏教徒が散見され、タイの宗教文化の一部を垣間見ることができた。

その後訪れたワット・プラ・シー・サンペットにおいては象乗り体験をすることができた。戦争において象は王を守り先頭を切って戦うことから勇気と誇りの象徴とされていたり、また、白い象が仏陀の化身と崇められたりすることからタイの人々にとって象は非常に大切な存在とされている。そうした価値観を今回の象乗り体験では感じることもできた。

3時にアユタヤを出発。5時にアジアンティーク・ザ・リバーフロントに到着。班別に見学した。ニューハーフショーや多くの民族雑貨店、活気に満ち溢れた飲食店街などで有名なアジアンティークにて部員は土産を買ったり、タイのエスニック料理に舌鼓を打った。帰りは最寄りの駅まで無料のシャトルボートに乗り、チャオプラヤー川からアジアンティークや近くのビル群を眺めつつ帰路についた。



8月9日(木曜日) 4日目

手配バスにて宿舎を出発。弊部OBである吹野さんの御学友である Arin さんが社長を務める EMINENCE の企業見学をさせて頂いた。そこでは EMINENCE という企業については勿論、タイの医療事情についても詳しく聞かせて頂いた。日本と同じく高齢化が進もつ

つあるタイにおいて日本の医療業界におけるノウハウは参考になる点が多く、タイと日本の医療業界は非常に密接な関係にあるということが分かった。多くの質問も飛び交い、非常に有意義な時間となった。昼食は EMINENCE の御厚意で大戸屋のお弁当を頂いた。

2時に大学寮に戻ると、3時よりチュラロンコン大学との交流試合を行った。なれない環境に戸惑う部員が多い中始まったレギュラーチームでの試合は、セットカウント 2-3 で敗れてしまった。その後、Bチームでも試合を行い、交流試合 1 日目は終了した。その後、大学内の食堂にて懇親会を行った。広く豪華な食堂では多くのタイ料理が出された。懇親会では多くの部員がチュラロンコン大学の学生と語り合い、交友を深めていった。



8月10日(金曜日) 5日目

手配バスで8時に宿舎を出発。国立博物館を班別で見学した。博物館には、タイの文化史・美術史に関する多くの遺跡品が 1000 点ほど所蔵され、また、多くの歴史的建造物が博物館敷地内に建てられていた。日本とは違った雰囲気をもつ遺産の数々はタイという国の特色を色濃く表しており、非常に興味深かった。手配バスでカオサン通りに移動。ここ

でもまた班別で行動し、各班で昼食をとった。多くの民芸店が立ち並び、観光客で賑わっている姿を見ることができた。

2時に宿に戻ると、昨日と同じように3時より交流試合を開始した。当日は、チュラロンコン大学の女子バレーボール部も交流に参加し、弊社女子部との交流試合を行った。レギュラーチームの試合結果はセットカウント0-3で敗北した。試合が終わるとすぐ、大学内の一教室に移動しチュラロンコン大学との交流討論会を行った。討論会では、性の多様性についてを話し合った。事前の勉強会の成果もあり、非常に活発な議論が行われた。9時より大学近くの中華料理屋にて交流夕食会が行われ、部員だけで行われた夕食会は非常に賑わい、先日以上に交友が深まり、今後の交流を共に誓い合った。



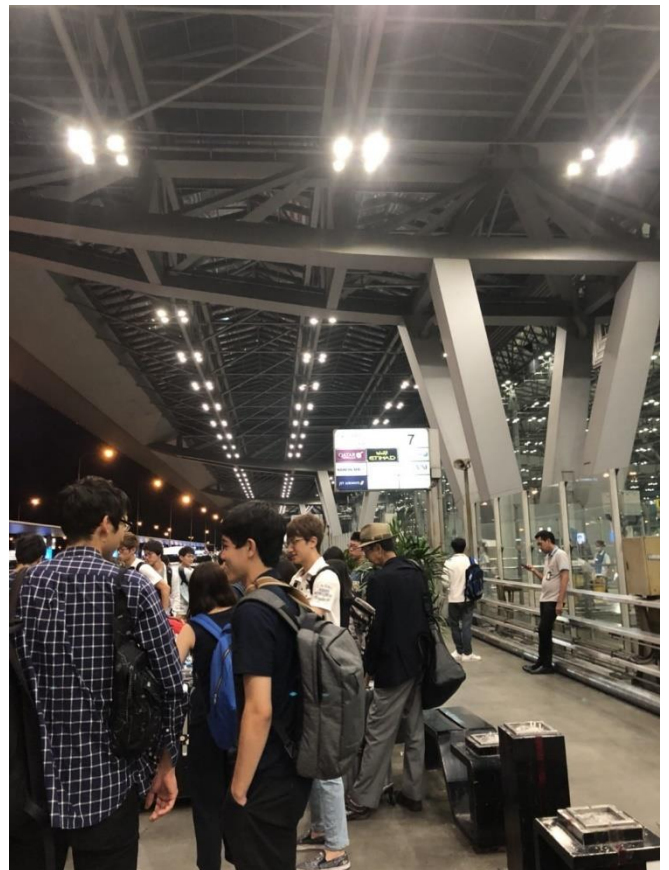
8月11日(土曜日) 6日目

7時半に手配バスに乗り宿舎を出発。8時半にタリンチャン水上マーケットに到着。水上マーケットを回る船に乗り、見学した。日本にはない独自の文化である水上マーケットは非常に興味深いものであった。川からは多くの寺院が散見され、ここでもまた10時半に水上マーケットを発ち、ワット・プラケオに向かった。ここでは、有名なエメラルド寺院や大きな金色の涅槃像など多くの歴史的遺産を見ることができた。ワット・プラケオ以降は班別での行動を行った。出発前、各班話し合いを重ね、行き先を考えた甲斐あり、全班有意義な班別行動となった。夕食も各班で取り、タイでの全行程を終えた。



8月12日(日曜日) 7日目

早朝5時に大学寮を出発。6時半にスワンナプーム空港に到着。8時35分発チャイナエアラインCI838便に乗り、バンコクを発った。台北桃園空港で無事乗り継ぎを済ませ、チャイナエアラインCI108便に乗り日本へと向かった。少々の遅れがあったものの7時には、成田空港に到着。遠征での全行程がここで終了した。



II. 部門別報告

(1) 交流・討論会部門報告

総括①(チュラロンコン大学との交流全般)

4年 平林 凜太郎

【日時】2016年8月9日・10日

【場所】チュラロンコン大学キャンパス

【概要】

チュラロンコン大学は1917年に創立され、チュラロンコン大王に名を由来するタイの最高学府である。弊部が一昨年におこなった台湾遠征では国立台湾大学との国際交流を通じて現地の文化・トレンド、対日感情などを深く知ることが出来た。本遠征でも同年代の優秀な学生との交流からタイの実情を学ぶべく、滞在中7日のうち2日間を交流に充てた。交流内容は大別して(1)親善試合・(2)交流討論会・(3)交流夕食会の3つである。詳細は各ページに譲るが、本稿では交流全体を通して感じたチュラロンコン大学の学生のカルチャーについて触れたい。

私たちはチュラロンコン大学の大学寮に宿泊し、毎朝食を学食で摂った。また、体育館への移動を通してキャンパスの広大さには大変驚かされた。聞けば、チュラロンコン大学の卒業生には大企業への就職が殆ど約束されているとのこと。その入試選抜の厳しさ、周囲がチュラロンコン大学生に懸ける期待の大きさは日本の比ではないことを感じた。将来タイの政治経済を担う可能性がある学生たちと交流を持てたことは私たちにとって大きな財産であると言えよう。

一方で、交流討論会および交流夕食会の会話では英語表現のレベルは我々と大差なく、ジェスチャーを用いてのコミュニケーションも多く見られた。共に英語が母語でない者同士、意思疎通には苦勞しつつも、チュラロンコン大学生が明るくコミュニケーションを持ちかけてくれたことで互いの会話が弾み、両国のジェンダー事情について詳しく話し合うことが出来た。チュラロンコン大学生は常に自らの性や嗜好をオープンにし、ジェンダー差別や法的な格差を私たちほどに深刻な問題として捉えていない。チュラロンコン大学バレーボール部には男性カップルもいたが、周囲が至極当然のものとして接している姿に、自分もまた偏見に侵されていることに気付かされ、日本との大きな違いを感じた。

また、多くのチュラロンコン大学生は日本に好意的な姿勢を持ち、自動車等の産業製品、京都といった観光地に興味を示していた。最終日にお土産として持参したタオルを渡したところ、チュラロンコン大学オリジナルのキーホルダーをいただき、互いの交流をより深めることが出来た。両国を訪れた際に互いを助け、今回築いた関係性をより発展させていけるよう、SNS等も活用しながら継続してコミュニケーションを取っていききたい。

総括②(チュラロンコン大学との交流試合)

4年 栗本寛久

【日時】2018年8月9・10日

【場所】チュラロンコン大学体育館

海外遠征における交流試合はバレーボールを通じて相手校との交流を図るという位置づけである。しかし、同時に秋のリーグ戦を1カ月後に控えた我々にとっては日頃の練習の成果を試す貴重な機会でもあり、タイのナショナルリーグ(社会人チームを含めたリーグ)の2部に所属するチュラロンコン大学は絶好の相手であった。試合の詳しい流れについては他の担当者の報告を参照していただくとし、私からは男子部の試合を守備面・攻撃面の双方から振り返りたいと思う。

守備面においては「対応力のなさ」が浮き彫りとなった。同じような攻撃パターンで何度も得点されてしまうシーンが多く、初めて対戦するチームに対して最初のセットで相手チームの特徴をつかみ、2セット目以降で修正し対応する力が足りていないと感じた。ブロックにおいてその傾向が顕著に出ているため、ブロッカー同士だけでなく、レシーバーとも積極的に意見を交わしていく必要があるだろう。

攻撃面においては、攻撃のバリエーションがあるにもかかわらず効果的に使用できなかったことが残念であった。速攻や平行トス(低いレフトへのトス)は遠征前に重点的に取り組んできたが、劣勢の中でアタッカー・セッターともに余裕がなくなりトスが合わず単調な攻撃になる場面が多かった。今後はセッター・アタッカー共々どんな状況でも自信をもって使えるまで攻撃の精度を高めていきたい。また、全体を通じて15点前後の勝負どころで粘ることが出来ず、相手に連続得点を許し、セットを落とすことが多かった。そのため、どのローテーションでも確実に得点できるような攻撃パターンを秋リーグまでに確立し、サイドアウトで試合の要所や苦しい場面を乗り越えられる力を養いたい。

女子部については、近年タイでは女子バレーの人气が高くレベルも上がっているらしく、チュラロンコン大学の女子バレー部のレベルもかなり高いものであった。一橋大学の女子部にとっては日頃できない高いレベルの相手と試合をすることが出来、試合の結果は別に非常に有意義な経験となったと思われる。

以上のように、プレー面においては課題が多く見つけられ収穫のあるものであったが、さらに、試合を通じて相手校の選手とふれあうことができ、試合後の夕食会や討論会で親睦を深める際の一助となったと感じる。特に女子部の試合では相手校からメンバーを数名借りて試合をしたため、試合中からコミュニケーションをとる機会多く、良い交流の場となっていた。

総括③(チュラロンコン大学との交流討論会)

3年 比氣朋訓

【プレゼンテーション及び討論の感想】 成果

本報告書では、議論の導入として私と炭本が担当したプレゼンの内容に触れ、討論会を簡単に振り返りたい。プレゼンは、炭本が多様な性に関する基礎知識の提供を、私が同性婚に関する法制度の説明や、私たちプレゼンターの提言及びその後の討論の心構えの伝達を担当した。まず、同性婚については、両国とも法的な保障がないが、タイでは公式な結婚を重視しない人もいて、同性婚制度の不在は問題にならない場合があることに触れた。この点については実際にそうなのか討論の際に質問してみたが、もちろん可能なら認めてほしいが法的な権利にはそこまでこだわらない、という回答が得られた。また、討論の心構えについては、「テーマについて自由に話してほしい」「必ずしも結論に至る必要はない」と伝え、参加者たちが発言しやすい環境を整えることを意識した。これは、一昨年の台湾遠征の際の交流討論会を経て、学術的に高度なテーマより自分の気持ちや感じ方を話す形の方が対話を図りやすいのではないかという意見が出たため、テーマの選定段階から意識してきたことだった。実際、本番の討論を傍で傍聴していた本学 OB からは、「一昨年の台湾遠征のときよりレベルアップした討論だった」という評価を受けることができ、タイの人たちの考えを知って学びを得られた弊部の学生も多かったようで何よりだった。具体的には、「性別よりその人が何をしたかが大事という言葉に胸を打たれた」「タイの人はとにかく自由で LGBT でも何も気にしていない、私たちが難しく考えすぎなのかもしれない」などの感想があがった。タイの人の多様な性への寛容さが私たちの想像以上であることを討論会を通じてより深く感じることができた。貴重な経験だったと思う。

【勉強会（討論練習）との関連】 課題

討論の練習は、7 月中に 3 回、各 1 時間程度行った。1 回目は、テーマ（多様な性）についての知識の整理と日本語での討論の練習、2 回目は、私と炭本のプレゼン及び英語での討論の練習、3 回目は、本番の議論を予想しながらの打ち合わせ兼討論練習、といった形で開催した。しかし、英語での討論練習を想定した回でもつい日本語で話してしまう班があり、英会話に自信がある部員はほとんどいなかったというのが現状である。正直なところ、本番の討論が盛況を見せたのも、交流相手校であるチュラロンコン大学の学生が場を盛り上げ話しやすい雰囲気を作ってくれたことによる部分が大きく、中には、自分から話を切り出せない学生も見られた。台湾遠征以降、弊部は部員全員で TOEIC を受験するなど英語力向上のための取り組みを行ってきたが、やはり英“会話”の経験を積んでおかなければ、英語を“話すこと”へのネガティブイメージの払拭にはつながらず、討論会に対する積極的な準備を促すことも難しいのではないかと痛感した。次回以降の遠征・討論会担当には、今回の討論会で皆が抱いたであろう向上心をいかに維持し、多くの英会話経験を積

んで本番への自信に繋げることができるか、試行錯誤しながらより質の高い討論を作り上げられるよう頑張ってもらいたい。

(2) 経済部門報告

総括

3年 今井優貴

今回の海外遠征において、チュラロンコン大学バレー部との交流に次ぐ重要な目的の一つとしてタイの経済面の視察がある。視察内容としては①日本大使館訪問②JETROバンコク支部訪問③タイトヨタBAMPOO工場訪問④EMINENCE訪問がある。それぞれの訪問先についての詳細は該当報告に譲り、ここでは全体を概観しつつ特筆すべき点に絞って述べたいと思う。

今回の遠征とりわけ経済面の視察は、事前勉強会抜きには語れない。それほどに事前勉強会で学習したことが実際の訪問で大いに活きた。事前勉強会では①タイの経済の歴史②日本とタイの経済的つながり③自動車産業④トヨタ(特にタイトヨタ)⑤タイ現地企業EMINENCE、の5つについて経済班が分担して調べ部員全体に向けプレゼンテーションを行った。加えて『タイ 中進国の模索』という本の通読も行った。①タイの経済の歴史では、主にアジア通貨危機や中進国の罣について、②日本とタイの経済的なつながりでは、貿易面での日タイ関係やODAによる経済協力について学んだ。また、『タイ 中進国の模索』の通読では、中進国の罣についてタイの歴史に沿ってより詳しく学んだ。これらで学んだことは、日本大使館訪問、JETRO訪問の際に大いに役に立った。両訪問時の職員の方のご講話の中に「中進国の罣」の話があり、事前に勉強していたからこそより深く理解することができたと同時に、学生側からの質問の機会をいただいた際にも前提知識があるからこそ深い質問を活発に行うことができた。③自動車産業では工場の製造ラインや自動車産業の今後の展望を、④トヨタについては、トヨタ生産方式やタイトヨタの概要を学習した。実際にタイトヨタBAMPOO工場を見学したことで、これらについて深められたとともに自動車工場の規模や実際に稼働している様子など直接自らの目で見学することでしか感じられないものを多く経験できた。⑤EMINENCEについては、EMINENCEの事業内容やタイの医療市場について学んだ。実際の訪問の際、英語でのご講話であったので、事前勉強による背景知識無しでは理解が難しかったと思う。ここでも英語で質問する機会をいただき、事前勉強を踏まえて活発に質問することができた。

総じて、事前勉強会によって当日の訪問が深められたとともに、日本での学習だけでは得られない、実際に訪問しなければ成し得ない経験を多くすることができた。また、訪問先の多くは個人では訪れることが難しく、海外遠征だからこそ得られた大変貴重な経験である。タイには多くの日系企業が進出しており、私たち学生のなかで将来赴任する人も少なからずいるであろう。その際に、今回の遠征で実際に自らの目で見たり、直接話を聞いたりして感じたこと、経験したことは必ず役に立つ。また、実際にタイに赴任することがなくても、日本経済において重要な役割を担っている東南アジア経済の実態を知れたことは、将来どんなキャリアに就こうと貴重な財産になるであろう。今回のこの貴重な経験を将来のキャリアに活かしていきたいと思う。

(3) 歴史文化部門報告

総括

3年 吉田 大介

今回の海外遠征では、チュラロンコン大学の学生との知的交流及びスポーツ交流、大使館をはじめとして現地の政府機関及び企業への訪問、タイの歴史文化学習の3つを核として事前学習を積んできた。

遠征前に行われた勉強会では歴史文化班が王朝や時代区分によって分かれ、プレゼンテーションを行いチーム全体で理解を深めた。(区分: 1. スコータイ朝 2. アユタヤ朝 3. アユタヤ朝以降)

まず、スコータイ朝およびそれを属国化したアユタヤ朝について。これに最も関連した海外遠征の内容はアユタヤ視察である。ビルマ軍の攻撃によってアユタヤ朝は滅び、その中で偶然仏像の頭が木の根と一体化しワット・マハタートとなったと習っていたものの、実際に訪れてその地に身を置いてみると建造物や仏像の崩壊した痕や落ちた仏頭は写真とは比べ物にならないほどに当時の戦闘の激しさを感じさせるものであり、その悲惨さを遺跡として現代に遺そうと考えたタイ人たちの思いが垣間見えた。

次にアユタヤ朝以降の歴史について。これに関連するのはバンコク国立博物館である。スコータイ朝から現在のチャクリー朝に至るまでの歴史や有史以前の美術品など様々展示されているが今回はアユタヤ以降の展示品についてである。タイの歴史に沿いながら当時用いられた文明器具や考古学資料、民俗資料を同時に学ぶことができ、教科書では学ぶこ

とが難しい政治、文化、芸術などの多方面から歴史をたどることによってタイの変遷を窺い知ることができた。

また、ワット・プラケオ、ワット・ポー、ワット・アルンの視察もアユタヤ以降の近代の歴史、文化に深く関係する。1767年にアユタヤ朝が滅亡し、現在まで続くチャクリー朝が成立したのちに建設されたこの寺院は、これまでのような歴史を表すものではなくその当時における技術力、また建築様式などを知ることができた。1784年に当時の技術力を結集させて建てられたワット・プラケオ、中国の要素を取り入れた様式で1788年に建てられたワット・ポー、建造された年代はわかっていないものの1年前に改修工事があったこともあり純粋に芸術品としての価値を帯びているワット・アルンそれぞれに違いが見えて興味深かった。

知識を蓄え写真を見て建物や建造物の形がわかったとはいえそれが歴史を理解するという行為からかけ離れていたことを現地の視察や現地学生との会話を通じて痛感した。とはいえ勉強会を通じてこれらの歴史を知った上で海外遠征に臨めたことによって視察の有意義が増したことは言うまでもない。その上タイの人々のバックグラウンドを知っていることは現地学生との交流の潤滑油としても一役買い、非常に実りある学習であった。これらの体験、学習は日本にいながらできることではなく海外遠征ならではの成果であると言えよう。

IV. 全体感想

全体感想①

3年 山田 真由

今回のタイ遠征はタイの経済発展のダイナミズムや独立を守り続けたタイの歴史文化を学ぶとともに、チュラロンコン大学の学生や如水会バンコク支部の方々との国際交流を深めることをテーマとして実施され、非常に充実した7日間を過ごすことができた。中でも日本大使館と企業訪問、如水会バンコク支部との交流夕食会、アユタヤ見学を通じて得た学びが大きかった。

日本大使館の訪問ではタイについての政治、経済状況や日本との関係について詳しい話を伺い、日本の皇族とタイの王族が緊密な関係を築いていることや、日本とタイが戦略的パートナーシップを構築していることなどを学んだ。また外交官という仕事そのものについてのお話も伺うことができた。JETROバンコク支部ではASEAN地域の多様性が経済にもたらすメリット、デメリットやタイ経済の特徴、中所得層の罅を乗り越えるためのプランについて問題点も踏まえた話を隣国ラオスとの比較も交えながら聞くことができた。事前の勉強会では触れていない話も多くあり大変有意義な時間であった。タイトヨタ訪問では実際に生産ラインの見学をさせていただき、どのようにトヨタ生産システムを実現しているのか間近で見ることができた。これらの企業訪問では活発な質疑応答を行うこともでき、事前勉強会の成果を出せたと思う。

交流夕食会は25名に及ぶ如水会バンコク支部の方々に参加いただき非常に賑やかな会となった。学生時代の話から仕事、現地での生活の話まで様々なお話を多くのOBの方々とすることができた。海外で活躍されている一橋大学のOBの方々と交流できる機会は滅多にないことなので大変貴重な時間を過ごすことができたと思う。

アユタヤの遺跡は非常にユニークなものが多く、チャオプラヤ川流域での交易によって様々な文化の影響を受けながら独自の文化を形成してきたアユタヤ朝の歴史を感じることができた。また破壊されている遺跡も多く、アユタヤ朝滅亡の要因であるビルマの攻撃の激しさも垣間見ることができた。勉強会でアユタヤについて学んではいたが、実物の遺跡群は写真で見た以上に壮大で非常に印象的であった。

今回の遠征ではトップレベルの企業の方のお話を伺う中でタイの経済についての知見を深め、またアユタヤ見学を通じてタイの歴史文化の理解を深めることができた。これは海外遠征だからこそなし得た経験であると思う。最後になるが、この有意義で貴重な経験をするのでできた背景として如水会、一橋大学バレーボール部OBOG会、現地企業やチュラロンコン大学の学生の方々の多大なる支援があったということを理解し、深く感謝するとともに、今回の経験を活かして社会人として活躍し、後輩への支援を行うことで恩返しをするという遠征本来の目的も達成することができるよう今後も学ぶ姿勢を大切にしていきたい。

全体感想②

2年 田中 裕章

今回のタイ遠征は、日本と経済的にも密接な関係にあるタイとの国際交流及びタイの歴史・経済を学ぶことを目的としたものであり、非常に密度の濃い7日間だった。

まずタイで医療機器などを輸入している EMINENCE という企業を訪問した際にはタイの医療機器市場について、また医療機器市場における日本とタイの関係について学ぶことができた。EMINENCE の方のお話を聞いていると、お互いに少子高齢化が進んでいる日本とタイはこれからより一層協力していかなければならないと感じた。

チュラロンコン大学との交流試合では、チュラロンコン大学の選手のレベルの高いプレーを見て多くのことを学べた。チュラロンコン大学の選手のサーブやスパイクはとても力強く、今の自分たちに足りないものを実感できた。チュラロンコン大学との交流試合が、これからのリーグ戦で4部優勝、3部昇格するための大きな足がかりとなると思った。また1, 2年生、女子部にとっては初めて海外の大学とバレーボールの試合ができ、貴重な経験となった。

討論会においてはチュラロンコン大学の学生と班ごとに分かれ性の多様性について英語で討論を行った。Sexual minorities に対してタイと日本では現在どのような認識がされているのか、また法整備は進んでいるのか、どうすれば sexual minorities も幸せに生きていけるのかなどについて意見を交換した。チュラロンコン大学の学生と一橋大学の学生では sexual minorities に対して着目する点も少々異なっていて興味深かった。チュラロンコン大学の学生によって新しい視点の考え方が提示され、それによって議論が深まり、どの班でも討論会は大いに盛り上がった。海外の学生と英語で討論する機会はめったにないので貴重な体験となった。また海外の学生とより深い討論を行い、意見交換をするためには、もっと英語力を身につけなければならないと改めて感じた。今回の討論会は多くの面で良い刺激となった。

チュラロンコン大学との懇親会は両大学の選手やマネージャー、OBの方など非常に多くの方が参加し盛大に行われた。お互い緊張することなく気軽に話し合い、交流を深めた。懇親は賑やかに進み、お互いの文化や言葉を紹介し合った。海外の大学にも多様な人々がいると改めて実感した。

今回の遠征でタイの歴史文化・経済への理解を深めるとともに様々な企業への訪問やチュラロンコン大学との交流など海外遠征でしか成しえない貴重な体験ができた。如水会やOB会、訪問先企業やチュラロンコン大学の方々に深く感謝するとともに、この経験を様々なところで活かしていきたい。

V. 如水会タイ支部 訪問報告

如水会バンコク支部夕食会

4年 住吉瑞基

【日時】2018年8月7日（火）

【場所】日本人会館本館・大会議室

【概要】

“経済訪問”をテーマとした2日目最後のスケジュールは、今回のタイ遠征において多大なる力添えをして頂いた如水会バンコク支部の方々との交流会であった。我々バレーボール部員が総勢41名に対し、タマサート大学にて留学をされている加茂さんを加えた、計25名もの会員の方々に出席をして頂いた。最初にバンコク支部長を務められる中川さん（1978年卒、商学部、Energy Pro Corporationにご所属）から歓迎の挨拶を頂き、その後、最年長であられる服部さん（1965年卒、商学部）が乾杯の音頭をして下さり交流会が開始した。しばし部員と会員の方々で歓談を行い、今回初めて如水会バンコク支部の交流会に参加された方などから順に挨拶をして頂いた。その後はバレーボール部の紹介へと移り、遠征担当の渡邊、OBの宗田さんと安西さんの順で挨拶を行った。最後に主将平林による決意表明、バレーボール部OBでタイ味の素にて勤務されている渡辺さん（1990年卒、商学部）からのご挨拶、そして現役を代表して1年の本田が気迫十分のエールで締め、交流会は無事に終了した。

【勉強会との関連】

経済分野の事前研究で、タイは日本に必要不可欠なパートナー国であると学んでいたが、その場では貿易額などあくまで数字面での話に過ぎなかった。だが実際にタイに進出されている日系企業で働かれている方、またはタイで起業をされている方の現地でのお話から、改めて日本経済にとってタイは重要な地域になると感じられた。

【感想】

間違いなく、如水会という繋がりが無ければ伺えなかった貴重なお話ばかりであった。特にインフラ系や食品系メーカーの存在感が、日本と比較してタイではかなり大きいというのが、お話を伺う中で印象的であった。また日本以外の場所でもこうした大学の縦の繋がりが、現役の我々にとって非常にありがたいものだの実感した。海外でビジネスに励む先輩方から、多くのことを学ぶことが出来た貴重な経験であった。



↑如水会タイ支部での写真

VI. 事前學習

事前学習(『タイ 中進国の模索』)

1年 左右田航

今回の事前学習で学んだことはタイが中進国になるまでの過程と、これから先進国になるためにすべきことである。中進国という単語は聞き慣れないものであったが、この機会を通じて上位中所得国(1人あたりGDPが3036~9385ドルの国)のことを指すことがわかった。タイは1988年から未曾有の経済ブームを経験し、その証拠にバンコクでは高層ビルの建設ラッシュが起きていたという。その大きな成長も1997年のアジア通貨危機を経て止まってしまうことになった。著者の末廣氏は、タイが更なる成長を遂げるにはグローバル化や自由化の波にタイ社会を自ら適合させていく「タイ王国の現代化」と、王制と仏教を軸に社会の公正や安定を重視する「タイ社会の幸福」のどちらかの選択が必要だと語っている。

実際にタイで学んだのは、中所得の罫である。タイは中進国になってから著しい経済の発展はなく、先進国への仲間入りする事ができないのである。実際、タイの1人当たりのGDPは1990年代には中国やマレーシアのものとほぼ同じであったのに10年ほどで大きな成長をする2国に大きな遅れを取るようになったのである。この状況を打開するためにタイランド4.0という政策が進められている。タイでの今までの成長の段階は順に1.0(農業)、2.0(軽工業)、3.0(重工業、海外からの直接投資)に分けられている。タイランド4.0で目指すのは次の段階である4.0(産業の高度化、高付加価値化)である。この政策は農業にもしっかり目を向けつつ中小企業への積極的な援助等の施策を実施して3~5年以内で遂行される予定だという。バンコク市内を歩いていて特に印象に残ったのは、日本と少し異なる街並みである。事前に学んでいた通り高層ビルの数が多かっただけでなく、21世紀に建設されたであろうお洒落なビルが多かった。テトリスのようなもの、少し傾いたものが多く見受けられ、夜もバンコクの中心部は明かりが輝いており、タイが経済発展途中であることを匂わせるようであった。また、街の至る所で国王の写真を見る事が出来た。タイでは不敬罪に注意しなくてはならないことは事前に勉強会で学んでいたが、不敬罪が存在するほど国王が愛されているということをよく理解する事が出来た。

末廣氏は結局、タイは「現代化への道」と「社会的公正の道」を折衷した道を歩むべきだと語っているが、私も全く同じ意見である。実際に現地で国王への国民の愛、多くの寺院を見てこの文化を絶やしてはならないと感じた。大事なものは、タイの素晴らしい文化、国民の思いを残しつつ先進国の知恵を取り入れる方法を模索しどちらの道に比重を置くかを考える事だと思う。

VII. 參考資料

2018年4月10日

2018年度海外遠征計画書

一橋大学体育会バレーボール部

1. これまでの海外遠征

2010年度 豪州、2012年度 中国、2014年度 シンガポール、2016年度 台湾

2. 2018年度海外遠征先

タイ王国

3. 海外遠征参加者

- ・4年生 5名
- ・3年生 11名
- ・2年生 11名
- ・1年生 約12名の予定
- ・引率OB 1名

合計40名（※加入する新入生の人数により多少の増減あり）

※氏名等の詳細は添付別紙の通り

4. 交流先

チュラロンコン大学 (Chulalongkorn University =CU)

バレーボールクラブ

5. 宿泊先

チュラロンコン大学 大学寮 Chuan Chom/Wittayanivej

(254 Phayathai Rd, Khwaeng Wang Mai, Khet Pathum Wan, Krung Thep Maha Nakhon 10330)

6. 実施年月日

2018年8月6日（月）～8月12日（日）の6泊7日を予定。

7. 日程表・タイムテーブル

1日目 (8月6日 月曜)

- 7:20 成田空港集合
- 9:25 成田空港出発
- 12:10 台北桃園空港着、乗り継ぎ
- 13:35 台北桃園空港出発
- 16:20 バンコク スワンナプーム空港着
- 18:30 大学寮チェックイン

2日目 (8月7日 火曜)

- 8:20 大学寮発
- 9:00～10:20 日本大使館訪問
- 11:00～12:00 JETRO バンコク支部訪問
- 13:30～15:30 タイトヨタ BANPHO 工場見学
- 19:00～21:00 如水会バンコク支部交流会

3日目 (8月8日 水曜)

- 9:00 大学寮発
- 11:00～11:30 ワット・ヤイ・チャイモンコン見学
- 13:00～13:40 ワット・マハタート見学
- 14:00～14:30 ワット・プラ・シー・サンペット見学
- 14:40～15:10 象乗り体験
- 17:00～20:00 アジアティーク・ザ・リバーフロント見学

4日目 (8月9日 木曜)

- 8:30 大学寮発
- 10:00～13:00 EMINENCE 訪問
- 14:00 大学寮着
- 15:00～19:00 CU と交流試合
- 20:00～22:00 CU と懇親会

5日目 (8月10日 金曜)

- 8:00 大学寮発
- 9:00～11:00 国立博物館
- 14:00 大学寮着
- 15:00～18:00 CUと交流試合
- 18:30～20:30 CUと交流討論会

6日目 (8月11日 土曜)

- 7:30 大学寮発
- 8:30～10:30 タリンチャン水上マーケット
- 11:30～ ワット・プラケオ
- 13:00～ ワット・ポー
- 14:00～ ワット・アルン
- 15:00～21:00 班別自由行動(21:00には大学寮集合)

7日目 (8月12日 日曜)

- 5:00 大学寮チェックアウト・出発
- 6:30 バンコク スワンナプーム空港着
- 8:35 バンコク スワンナプーム空港出発
- 13:15 台北桃園空港着、乗り継ぎ
- 14:40 台北桃園空港出発
- 18:55 成田空港着
- 解散

交流日程

8/9(木)			8/10(金)		
時間	内容	場所	時間	内容	場所
15:00	到着	体育館	15:00	到着	体育館
15:15~15:30	開会式		15:10~15:50	アップ	
15:30~16:15	アップ		16:00~17:15	第三試合	
16:30~18:00	第一試合		17:15~18:00	第四試合	
18:00~19:00	第二試合			移動	
	移動		18:40~19:00	イントロダクション	教室
20:00~22:00	懇親会	レストラン	19:00~20:30	ディスカッション	
				移動	
			21:00~22:00	夕食	

交流の主なタイムスケジュールは以上の通りです。

以下、試合や討論会、夕食について補足説明いたします。

・ 試合について(8月9日、10日)

第一試合～第四試合

第一試合、第三試合はレギュラーメンバー(5セットマッチ)

第二試合、第四試合は新人(1・2年生)を中心としたベンチメンバー(3セットマッチ)

これらの試合は全て時間と試合進行により変わることがあります

可能であれば女子の試合を一試合(1セットマッチ)やります

・ 討論会について(8月10日)

18:40~19:00 自己紹介・イントロダクション

19:00~19:30 各班で討論

19:30~20:00 各班で討論結果発表

20:00~20:30 発表に対するの意見や質問を全体で話し合う

収支報告書

一橋大学バレーボール部 第5回海外遠征(タイ) 収支報告書		2018年8月31日作成	
		会計担当:旭、渡邊	
		換算率 1円=0.2975B	
【収入の部】			
項目	単価(円)	数	金額(円)
1 OBOG会支援金			1,320,000
2 如水会国際交流助成金			1,000,000
3 参加者個人負担金	50,000	39	1,950,000
4 利息		3	銀行預金利息
収入合計			4,270,003
【支出の部】			
項目	単価(円)	数	金額(円)
1 飛行機代			2,528,454
2 宿泊費			344,873
3 海外旅行保険料			82,800
4 現地交通費等			731,385
5 CUとの交流会費			31,042
6 如水会夕食会費			50,000
7 現地訪問贈答品費			37,300
8 その他雑費			118,247
支出合計			3,924,101
収支(次回への繰越金)			345,902

参加者名簿

	学年	学部	名前	フリガナ
1	4年	商	相川 泰輝	アイカワ タイキ
2	4年	社会	栗本 寛久	クリモト ヒロヒサ
3	4年	社会	住吉 瑞基	スミヨシ ミズキ
4	4年	法	平林 凜太郎	ヒラバヤシ リンタロウ
5	4年	経済	和地 由布奈	ワチ ユウナ
6	3年	社会	石田 龍	イシダ リョウ
7	3年	法	今井 優貴	イマイ ユウキ
8	3年	社会	笠原 凜太郎	カサハラ リンタロウ
9	3年	経済	阪口 雄基	サカグチ ユウキ
10	3年	社会	比氣 朋訓	ヒキ トモノリ
11	3年	法	吉田 陽	ヨシダ アキラ
12	3年	経済	吉田 大介	ヨシダ ダイスケ
13	3年	商	渡邊 雄貴	ワタナベ ユウキ
14	3年	社会	渡部 龍生	ワタナベ リュウセイ
15	3年	商	旭 麻衣	アサヒ マイ
16	3年	商	山田 真由	ヤマダ マユ
17	2年	商	青木 漱介	アオキ ソウスケ
18	2年	法	多田 友之介	タダ ユウノスケ
19	2年	法	田中 裕章	タナカ ヒロアキ
20	2年	経済	塚田 源	ツカダ ハジメ
21	2年	商	南 新八	ミナミ シンヤ
22	2年	商	柿原 優衣	カキハラ ユイ
23	2年	社会	炭本 奈都子	スミモト ナツコ
24	2年	商	玉木 里奈	タマキ リナ
25	2年	法	安達 優佳	アダチ ユカ
26	2年	商	田北 美樹	タキタ ミキ
27	2年	経済	中村 優	ナカムラ ユウ
28	1年	商	小俣 淳平	オマタ ジュンペイ
29	1年	法	シモン ナイ	シモン ナイ
30	1年	経済	瀬賀 龍慈	セガ リュウジ

31	1年	商	左右田 航	ソウダ ワタル
32	1年	商	田中 佑弥	タナカ ユウヤ
33	1年	社会	林 慎太郎	ハヤシ シンタロウ
34	1年	法	本田 爽馬	ホンダ ソウマ
35	1年	商	今村 遥香	イマムラ ハルカ
36	1年	法	藤山 奈々子	フジヤマ ナナコ
37	1年	商	山本 真由	ヤマモト マユ
38	OB	一	宗田 雅彦	ソウダ マサヒコ
39	OB	一	中島 孝	ナカジマ タカシ

討論会プレゼン資料

What should we do
in order for many people
including sexual minorities
to live happy lives ?

Hitotsubashi University Volleyball Club
Junior, Tomonori HIKI / Sophomore, Natsuko SUMIMOTO

Flow of Presentation

- an outline of sexual and gender diversity
- the legal systems about same sex marriage in Thailand and in Japan
- our opinion of this theme

What should we do
in order for many people
including sexual minorities
to live happy lives ?

What do you think this
means ?

$$\frac{1}{13}$$

The answer is

the ratio
of sexual minorities
in Japan

The ratio of sexual minorities
in Japan

$$\frac{1}{13} \doteq 7.6\%$$

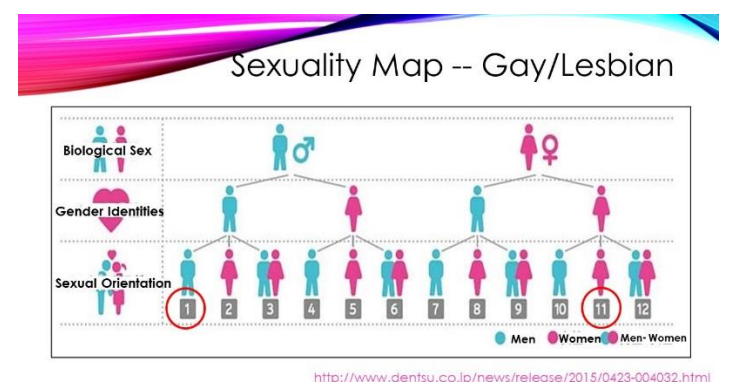
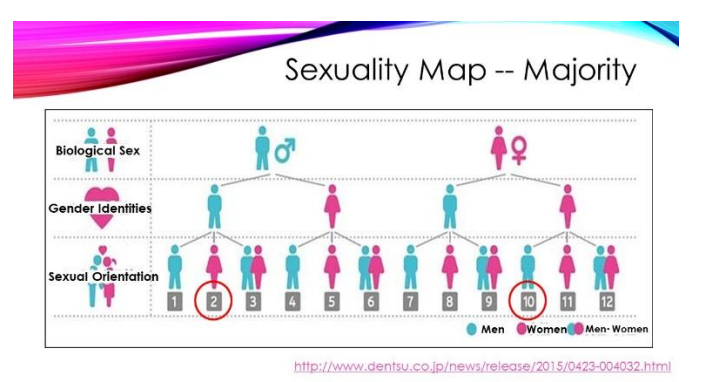
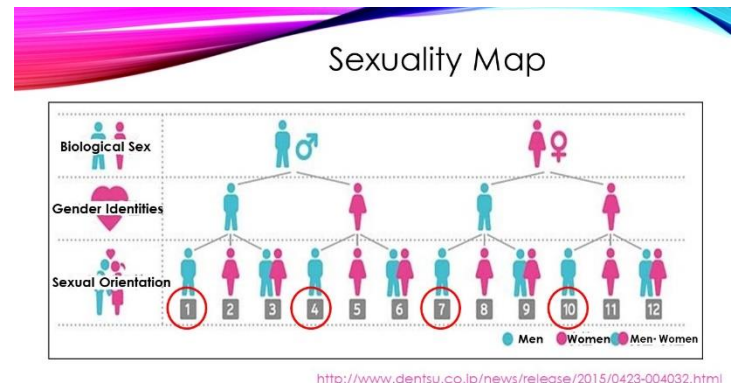
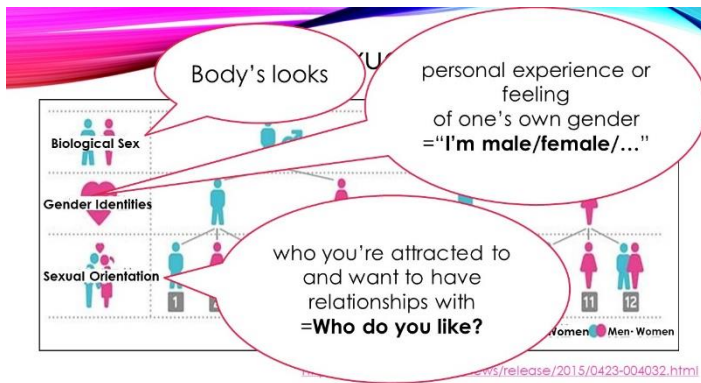
What is a "sexual minority" ?

a group whose biological sex, gender identity, or sexual orientation differ from the majority of the surrounding society

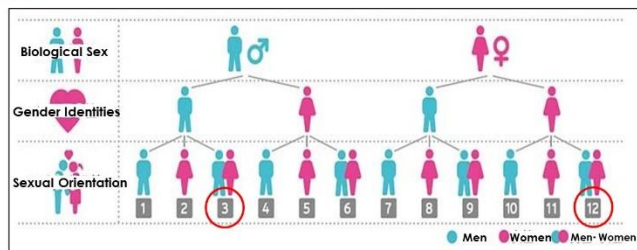
Biological sex = gender identity
&
Love the opposite sex

What is important ?

What you feel about your gender > Your looks

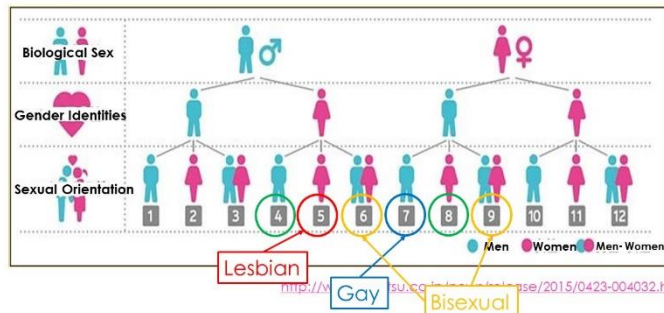


Sexuality Map -- Bisexual



<http://www.dentsu.co.jp/news/release/2015/0423-004032.html>

Sexuality Map -- Transgender



<http://www.dentsu.co.jp/news/release/2015/0423-004032.html>

the legal systems

in Thailand

- Same sex marriage is not legally acknowledged.



- It doesn't matter for some people who think an official marriage is important.

in Japan

- The partnership policy acknowledges same sex marriage, but it does not have any legal binding force.



- They are considered unrelated on the family register thus are unable to receive some rights.

My Opinion (ideals)

- The legal system: Same sex marriage should be legally acknowledged both in Thailand and in Japan.

- The social system: the "rest room" problems



- The social system which divides people between men or women may be problematic.

My Opinion (realities)

- It is too difficult to change the social system which has continued for a long time.
- Sexual minorities should accept these existing legal and social systems in some cases.



- How friendly ordinary people interact with sexual minority is more important than changing the systems.

One more important thing

- Some accept sexual minorities without any trouble.
- ✗ Others cannot easily interact with them.



©So, it's necessary to communicate with others enough and try to understand what other people think.

What I want you to do next

©I want you to talk about the theme freely.

You don't have to draw a conclusion.

- "We should be considerate of them."

- "What do you think about sexual minorities?"

- "I don't understand sexual minorities."
etc.

Anything is OK !!

What should we do
in order for many people
including sexual minorities
to live happy lives ?

Thank you for listening!!

